

GHE030-04

会場: 202

時間: 5月23日09:45-10:00

日本の岩石学史で偏光顕微鏡のはたした役割

Aspects of the role of microscopes in the history of petrology in Japan

矢島 道子^{1*}

Michiko Yajima^{1*}

¹地質情報整備・活用機構

¹NPO-GUPI

偏光顕微鏡は、岩石を構成している鉱物に偏光性があることを利用した鉱物の性質を調べる機器であり、岩石学を進める上で重要な役割を果たしてきた。特に日本の岩石学の歴史の上では以下のような特異な役割を果たしてきた。

1. 明治時代、外国人から習った地質学から日本の独立した地質学をつくる口実となった。
2. 輸入から自作となった。
3. 20世紀前半の岩石学をリードした。
4. 第2次世界大戦中、ウラン探鉱に一役買った。
5. 戦後の岩石学をリードした。

キーワード: 岩石学, 偏光顕微鏡, 小藤文次郎, 坪井誠太郎, 久野久, 都城秋穂

Keywords: petrology, polarizing microscopes, Bunjiro KOTO, Seitaro TSUBOI, Hisashi KUNO, Akiho MIYASHIRO